

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.45

皆さん、お札が新しくなるという話題、知っていますか？発表されたあたりは、話題に上りましたが、その後、何やら世間が慌ただしくなって、忘れられているかも。そこで、今回は、新札にまつわる三人の伝記を紹介します。ちなみに、新札は、2024年辺りからだそうです。

『北里 柴三郎 コミック版 世界の伝記』

時代ごとに輝いていた世界の偉人の生涯について書かれたシリーズです。その中から、北里柴三郎博士。「日本細菌学の父」と称せられる北里博士。幼少の頃から、信念を貫き通す、そんな子供でした。博士は、最初「武士・軍人」になりたかったのですが、長男だったので周囲から大反対されます。そこで、一計を案じ、外国語を習うという名目で、家を出ますが…。そこで出会ったオランダの医学者に感化され、医師の道へと大きく舵を切ります。北里博士が残した言葉。「生涯をかけて立ち向えば、成しとげられないことはない。」「研究だけをやってはいけぬ。それがどうやって世の中に役立てるかを考えよ。」今、まさに世界は「新型コロナウイルス」感染症に苦しめられています。北里博士の残した功績は現代につながる偉大なものでした。ちなみに、北里博士は、「1000円札」の人です。

『津田 梅子 時代を切り開いた世界の10人 レジェンドストーリー』

どうですか、皆さん！世界の10人ですよ！すごくないですか！時は「明治」。大の大人ですら外国に行くなどということが夢のまた夢だった時代、津田梅子は、わずか6歳で女子留学生の一員に選ばれます。そして、留学先のアメリカで、新しいことを夢中で学ぶ内、「いつか日本で学校を作りたい」という思いが胸の内に芽生えるのです。女子教育の重要性を訴え、その実現のため奔走した激動の一生でした。津田梅子女史が残した言葉。「まかれた種は、豊かに実りをつけねばならないことを心得てください。」津田梅子女史は、「5000円札」の人です。

『渋沢 栄一 この人を見よ！歴史をつくった人びと伝』

名前だけは、聞いたことがあるけれど…？の人がほとんどではないでしょうか？（もちろん、私もその一人です。）日本に初めて銀行や株式会社をつくり、近代経済の発展につくした、実業界の父。と扉には書いてあります。「東京証券取引所・田園調布・富岡製糸場・一橋大学・第一国立銀行…」こんなに異なるジャンルのものを、本当に一人で全部作ったんですか？と信じられない業績の数々です。（これでも、ごく一部です。）では、なぜ、ご本人の名前がそれほど前面に出てこないのでしょうか？それは、彼が「会社に名を残さぬ社長」で、自分の名前を冠した巨大な財閥には、興味がなかったのです。渋沢栄一氏が残した言葉。

「道理正しいか、時運に適しているか、人の和を得ているか、おのが分にふさわしいか。」「小事も、積んでは大事となる。」渋沢氏は「10000円札」の人です。おまけ。今年の大河ドラマ「青天を衝け」のモデルは、もちろん「渋沢栄一」です。

